

第2次昭島市生涯学習推進計画(案)に関するパブリックコメントの結果について

No	該当頁	該当項目	意見の内容	委員会の考え方
第2章 3 施策の方向性 (1)「学び」の基礎を作る (3)「学び」の機会を提供する (4)「学び」を支援する				
1	P.24	3(1)	小・中学生(地域・国の宝です)に自国の文化伝統を経験する機会をより多く設けていただけたらと存じております。	本計画では「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」を目標に様々な学びを提供することを提唱しています。現在も「薪能」「落語」などの鑑賞、「陶芸教室」による体験等、様々な取組みが各方面でなされておりますが、この計画を進める中で、ご指摘の文化伝統の継承の機会もさらに充実されていくものと考えております。
2	P.23～ P.38	3(1)	今日の時代背景やニーズから具体的問題として「自分たちの地域は自分たちの手で」との発想でよりよい地域づくりを目的に行動と学習を起こそうとするものです。地域の力とは何か？について学習活動を展開することで次の点が醸成される。 一、その地域の市民が共に生きようとする共生の力 二、地域共通の課題に対して傍観せずに皆で参加、取組む参加の力 三、自分たちの地域に根ざそうとする帰属の力 以上の項目等を具体的学習内容にすえて、学習活動を展開することを提案するものです。この事によって地域に関心と地域活動に意欲ある市民の誕生が期待できる事になる。	「共生の力」「参加の力」「帰属の力」など、大変示唆に富んだご意見と、本計画全体を通しての目標である「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」は同じところにあると考えます。本計画の『第2章3施策の方向性(1)「学び」の基礎をつくる』に掲げた4つのニーズに応じた学習活動を展開することにより、ご指摘の具体的学習内容に沿った「学び」が展開され、地域に関心と地域活動に意欲のある市民の誕生が期待されると考えます。
3	P.50～ P.72	3(3)(4)	「学び」の機会を提供するには具体的な種まきが必要。前回の計画案でも目に付いた点ですが、作文的記述でその目的に向かって、誰がどのような形で推進していくのかが不明確である。希望としては大綱的方向性は行政が立案し、実施母体を市民主体の校区協議会に委ねるのも結構ですが、立ち上げのためには「校区協議会の中で導火線係的な呼びかけ人が必要です」。その人たちが中心となり、段々輪を広げていくと同時に何の為に、誰がどのように学習していくのかや人の輪作りが必要です。それと並行して種々の問題をアドバイザーできる組織を考慮すべきです。一例としては行政側と一緒に「コーディネーター会議」なるものを立ち上げるのも必要と思います。	本計画では、市の役割を明らかにすることで生涯学習推進を図ることを前提としています。現在、地域には多くの市民団体が活動しており、その社会資源を活用していくため、社会教育課がコーディネート、相談機能を進め、さらに市民と共に地域の中にコーディネート機能を構築することを提唱しております。本計画を実践する中で「コーディネート会議」などの組織も検討されていくものと考えております。